

皮膚科 臨床研修到達目標

1. 特徴

乾癬に対する生物学的製剤使用承認であり、乾癬の治療に力を入れています。

日本アレルギー学会の教育研修施設として、多くのアレルギー性皮膚疾患の診察を行っています。

皮膚悪性腫瘍の診断、治療（手術、免疫療法）にも注力しています。

2. ねらい

医師として最低限必要な皮膚科学の知識を身につける。

3. 一般目標

皮膚科外来診療、病棟診療、手術、検査、カンファランスに参加し、皮膚科学の基本的知識、検査法、治療法を身につける。

1) 皮膚科診断学

発疹の種類と記載の方法、理学的検査法、生理機能検査法、感染症の検査法、アレルギーの検査法、免疫学的検査法、光線試験、病理組織学的検査、腫瘍に対する検査法を習得する。

2) 皮膚科治療

薬物療法（外用療法を含む）、理学療法、手術療法、スキンケア、救急を要する皮膚疾患のプライマリ・ケアを習得する。

3) 代表的皮膚科疾患

湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、皮膚癢痒症、紅皮症、紅斑症、紫斑病・血管炎、脈管性疾患、膠原病及び類縁疾患、薬疹・中毒疹、物理・化学的皮膚障害、肉芽腫、水疱症、膿疱症、角化症、炎症性角化症、代謝異常症、ウイルス感染症、細菌感染症、抗酸菌症、真菌症、性感染症、動物性皮膚疾患、皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、母斑・母斑症、色素異常症、付属器疾患、皮膚形成異常・萎縮症についての知識を習得する。

4) その他

医療文書の書き方、学術集会での発表、医学論文の書き方など

4. 研修方略

研修医一人に指導医、指導責任医が皮膚科全般にわたり研修指導する。外来で多くの症例に接して、また臨床、病理、入院患者カンファランスでは症例提示により多くの皮膚疾患に対する理解を深め診断、治療について研修する。

検査としては、真菌検査、水痘・ヘルペスの感染細胞染色、貼布試験・プリックテストなどアレルギー検査を指導医のもとで研修する。外科的治療では凍結療法や皮膚生検、簡単な手術や手術創の縫合を指導医のもとで研修する。

火曜日の検討会では皮膚科の基本的疾患についての学術的知見を深める。

皮膚科関連の学術講演会にも参加していただき学術的知見を深める。

5. 週間スケジュール

科		月	火	水	木	金	土
皮膚科	午前	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟
	午後	病棟手術	手術	病棟手術	病棟手術	病棟手術	
	夕刻		入院患者検討会 回診 組織検討会 臨床検討会 抄読会				

6. 研修評価

- 1) 自己評価：EPOC2 を用いて自己評価を行う
(症候、疾病・病態の経験についてはEPOC2にて確認を行う)
- 2) 指導医による評価：EPOC2 を用いて研修医を評価する
(症候、疾病・病態の経験についてはEPOC2にて確認を行う)
- 3) 研修医による研修体制評価：EPOC2 を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

7. 指導体制

指導責任者 梅林 芳弘

指導医 加藤 雪彦

刈谷 隆之